



「春日局も通った御代参街道
真ん中の宿場町・岡本宿を歩く！」
—参拝の道、商いの道の足跡を辿る—

御代参街道は、東海道の土山宿から中山道の脇往還。祈祷代参の名代で伊勢神宮参拝後、土山から多賀神社へ参拝したことから名付けられました。岡本宿はちょうど真ん中の宿場として本陣や旅籠や問屋や商店が立ち並び賑わいをみせていました。当時の様子がわかる風景や古社寺、屋号、道標、絵馬などを訪ねながら、江戸時代の旅人の気分を味わいましょう。



⑤ガリ版伝承館

ガリ版伝承館は、明治40年代に建てられた旧堀井新治郎本家を修復し、温かみのあるガリ版文化にふれる施設として平成10年開館されました。堀井家は江戸時代より味噌・醤油醸造・販売を関東で商いする近江商人で、明治27年、未だ毛筆が主流であった時、大量に同じ文章を簡易に印刷する謄写版を発明・販売しました。謄写版はガリ版という愛称で学校、役所、会社などあらゆる簡易印刷に80年にわたり使われました。伝承館ではガリ版が民衆によって生み出した文化や芸術を知ることができます。

④旭野神社・法雲寺

上麻生は、隣町の下麻生と共に中世の農村集落の姿を色濃く残しています。法雲寺は、古くは十禅師権現と呼ばれた天台宗の寺院で、本堂東側の小堂には国重要文化財の木造聖観音立像が安置されています。本像は平安時代(11世紀前半)の作で、像容からみると帝釈天像で、飯道寺(甲賀市)の古仏と伝えられています。旭野神社には、鎌倉時代の石造七重塔(市指定文化財)が建てられています。

⑥旧岡村邸(明治の郵便局跡)

この住宅は、堀井謄写堂の重役の本宅です。この地には明治時代初期に岡本郵便局があった所で、明治41年に現在の鋳物師町に移転され、その役目を終えています。宅内には、郵便局時代の貴重な資料が残されており展示されています。

④ 上麻生町

③麻生荘の守護神・高木大明神

高木神社は、『三代実録』の貞観七(865)年十一月二十六日条に「麻生神」との名が見え、荘園・麻生荘の守護神です。麻生荘は、現在の蒲生岡本町・上麻生町・下麻生町ほか広大な領地を有しました。境内には国重要文化財の本殿2棟(室町後期)、燈籠(鎌倉時代)や絵馬(江戸時代)のほか、4月の春大祭・けんけと祭り(通称帯掛け祭)は、民俗文化財として大変貴重です。

蒲生岡本町

②御代参街道岡本宿

御代参街道は、東海道の土山宿から中山道の小幡に至る約9里(36km)の脇往還(バイパス道)で、祈祷代参の名代で伊勢神宮参拝後、土山から多賀神社へ参拝したことから名付けられました。岡本宿は中間にあたる宿場として本陣や旅籠や問屋や商店が立ち並び賑わいをみせていました。当時の様子がわかる風景や古社寺、屋号、道標、絵馬などが残っています。右の絵図は、江戸時代後期の岡本宿の街並みを描いた絵図で、宿の中心部には本陣と高札場が見え、川口屋、高砂屋、桝屋、山形屋、菱屋、丸屋、井筒屋、泉屋、尾張屋、角屋など屋号が残っており、職種も旅籠6軒以上、造酒、近江商人堀井本家、医師、鍛冶、大工、小問物商などが軒を並べていました。

春日局(かすがのつぼね)の往来

寛永17年(1640)「春日局が、5月伊勢神宮へ御参宮されたのち多賀大社へ御参社される」ため継ぎ立ての指示をされました。春日局は三代将軍家光の乳母で「大奥」を作り大きな実権を握っていました。継ぎ立てとは、宿駅で人馬を替えて、貨客を送り継ぐことです。これまで街道の宿駅は、鎌掛・岡本・八日市の三宿で小規模でしたが、この時整備され石原宿が設置、岡本と合宿となりました。また、継ぎ立てを近隣の村々に助っ人を頼む「助郷」の制度化も進みました。

